

三井のリフォーム 住生活研究所 所長 西田 恭子

## 対面式パソコンコーナー

パソコンをどこに置きますか？

このことが、リフォームのプランニングに大きく関わってくるようになりました。一昔前は書斎があるのかないのか、また、どれだけの広さがとれるのが重要でしたが、今はパソコンを中心に考え、作業できる場所がどこに確保できるかが大事です。

書斎がある子育て期の夫婦で、奥さまが「もう我慢できない」と訴えてきたことがあります。

夫は帰宅後、食事が終わるとすぐに書斎に籠り、一時間も二時間も出てきません。書斎を覗いてみると、仕事ではなく、楽しそうにパソコンに向かい、趣味の世界に入り込んでいるというのです。

昼間は子供と二人で過ごした奥さまにとって、やっと会話ができる人が帰ってきたと思ったら、パソコンに向かい、背中しか見せない夫に腹が立ちます。

夫は夫で、雑多な仕事から解放されて、やっとホッとして、趣味を生かした世界に入り込んでいるのでしよう。



テレビがリビングにあるのと同様に、一家に一台のパソコンを、リビングに置くお宅があります。ただテレビと違ってパソコンの使用者は一人です。家族と共に過ごしつつパソコンに向かうのは、なかなか難しいことです。

けれどもパソコンに向かいながらも、家族に顔を向けていられる『対面式パソコンコーナー』のリフォームがあります。リビングの中のパソコンコーナーは、とかく壁に向かってカウンタールームになっている場合が多いですが、何もリビングという家族とのくつろぎの場所、背中をわざわざ向ける必要はありません。

対面式キッチンの希望が多いように、パソコン置場も対面式コーナーにすれば、時々顔を上げることが、家族との会話が成立しつつ、書斎としてのスペースが確保できるでしょう。

また、パソコンのまわり

はたいてい散らかるものです。食事やお茶をするたびに、机のまわりを片付けて席を立つのは難しいものです。区切りが悪ければ、またすぐ戻ることになるのに、片付けるというほうが無理というものかもしれません。

その点、対面式の腰高のカウンターが、雑多な散らかりを隠してくれます。リビングのリフォーム計画では、いつまでも綺麗に暮らせる住まいづくりも大切ではないでしょうか。

「対面式キッチン」という言葉が広まったように、これからは、あなたは「独立型パソコンコーナー派?」、対面式パソコンコーナー派?、「それともオープンパソコンコーナー派?」と考える時代がやってきました。

実は対面式の特長はもう一つあります。見ている画面が家族にわからないことです。これを「困る」と思うか、「それはいい!」と思うかは、人それぞれ違うでしょうが、案外リビングのパソコン置場としては、隠れたメリットかもしれません。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。(社)日本建築家協会正会員。